

2013～2014年度

大磯ロータリークラブ会報

ロータリーを
実践し



みんなに
豊かな人生を

★事務所：神奈川県中郡大磯町国府本郷546大磯プリンスホテル内 TEL：0463-61-1111(木) TEL/FAX：0463-36-2255

★例会：毎週木曜日 12:30～13:30 大磯プリンスホテル TEL：0463-61-1111 FAX：0463-61-6281

会長 鈴木 勝

会長エレクト 守屋 紀忠

幹事 守屋 紀忠

第2259回 例会

平成25年11月28日 (晴) No.19

■司会：原 千明

■点鐘：百瀬 恵美子

■合唱：我等の生業

◇プログラム・12月5日：フォーラム 新宅IM実行委員長 ・12月12日：ゲストスピーカー

◇出席報告	例会	会員数	出席数	出席率	メモアップ	修正出席率	◇欠席者(7名)
	2259回	18(16)	9	56.25%	—	—	小林 宮澤、片野、石山 齋藤(正)、太田、原卓さん
	2257回	18(15)	9	60.00%	10	66.67%	◇メモアップ(1名) 宮澤さん

◇おめでとうございます

理事長船橋さん=母親の小学校時代の同級生です。
(元我がクラブ会員)



大堀昭二さん
誕生日(10/16)
結婚記念日
(11/15)

昭和11年10月
16日生れ、喜寿
を迎えました。
昨日弁護士会から

喜寿の祝いをするから来年1月10日に弁護士会に来るように言って来ました。名簿を見ると私が加入している横浜弁護士会で喜寿の人が12名、米寿が3人、卒寿が一人いました。こういう年代に入ってきて身体の切れも悪いし、眼も弱ってきましたが、これからも頑張ります。



東京オリンピックの年の11月15日が結婚記念日ですので少々呆けても忘れません。結婚秘話はごく平凡です。うちの奥さん母親が白寿で、老々介護で大変ですが頑張っています。白寿はうちの区でもう一人おられます。元中南信用金庫の



結婚記念日：

井上浩吉さん(11/12)

お花有り難うございました。今も綺麗に咲いています。息子が50歳、結婚50年になります。西行法師の歌で「歳長けて また越ゆべしと思いきや 命なりけり小夜の中山」これは2度目の東北の勧進に行く時に歌ったものですが、一つの峠を乗り越えたかな、欲を出してもう一つ峠を越えてやろうかな、と言うのが只今の心境です。

◇ひとこと

笹尾 政儀さん

女性の執念：男は美人の前だと錠前の壊れた扉のように口が開きっぱなしになるという。イタリア・シチリア地方のど真ん中の小村に住むジュンディーンさん(20)は少しやくざっぽい夫のマン



クーンさん(29)を何者かに殺された。何しろマフィアの本場とあって、殺人事件などは日常茶飯事だけにチンピラややくざが殺されたくらいでは警察は本気で動いてくれない。二歳になる娘を抱え取り残されたジェンティーンさんは自分の手で憎い犯人を挙げてやると固く決心して、早速亡き夫の交友関係を調べて一番情報に通じているシモーネ(17)に近づき、この青年はもともと彼女に色目を使っただけに彼女の色仕掛けに落ち、初めてベッドをともにした夜、すべてを喋ってしまった。「お前の亭主はな、ジョルジョの藁葺き小屋に火を付けた罰として彼と仲間にピストルで頭に五発打ち込まれたのさ」。翌朝ジェンティーンさんが警察に駆け込み、農民のジョルジョとその仲間が逮捕された。封建時代なら操を捨てて夫の仇を討つ孝女かも知れないが現代では何と呼ぶのでしょうか!?

◇会長報告

百瀬 恵美子代理

皆さん14日、21日の例会変更でお久しぶりです。

11月10日宿場まつり、前日、当日参加頂いた方ご苦労様でした。お天気が悪かったですが何とか無事終わりました。

19日新地区補助金による贈呈式で救急救命訓練用キット80台を大磯町教育委員会に贈りました。参加された皆様(6名+事務局)ご苦労様でした。式典の様子は11月22日号のタウンニュースに掲載されました(コピー配布)。



来る12月16日(月)10:50~12:20に国府中学で生徒さんと一緒に実践することが決まりました。ご参加をお願いします。

大堀先生お久しぶりです。卓話宜しくお願いします。伊豆大島、フィリピンの台風被害に対する災害支援

金、臨時理事会に於いて各2万円寄付する事を決定し送金しました。

第8グループ会長・幹事会でEnd Polio Nowキャンペーンのため、ハッピーを作り緑化まつりで募金活動を行う事になりました。2千円のハッピーをロータリーとして10枚買う事に致しました。(公共イメージ・アップ)

及川さんより退会届が出され、受理致しました。後ほど及川さんからご挨拶があります。

◇幹事報告

守屋 紀忠幹事

この2週間の間に宿場まつり、救急救命キットの贈呈式がありましたが、普段出席出来ない会員もそこに出席頂きましたので、そういう時間帯の事業もやって行かないと、と考えます。



1. 年次総会は12月19日(木)PM6:00より、例会後ディナーショーに参加します。
2. 例会変更:平塚西RC(回覧)
3. 会報受理:志木RC(回覧)
4. 配布:ロータリーの友
5. 米山奨学会の「国際交流会」の案内12月14日(土)PM1:30より小田原「梅の里センター」にて。河本さん参加

◇及川昭男さん退会挨拶:

先ず御礼申し上げます。先程会長からお話がありましたが、先日の台風30号により甚大な被害を被ったフィリピンに対する全ロータリー、大磯クラブからの支援有り難うございました。東日本大震災に匹敵する規模の大被害ですので、長期にわたる支援が必要と思います。どうぞ宜しくお願い致します。

先日百瀬会長と守屋幹事がお出で頂いた時に申し上げましたが、退会の理由は幾つかありますが、私は不器用で幾つかの事を掛け持ちすることがどうしても出来ないで、やはり本業の方に精を出したいと思うようになりました。昨年度幹事をやらせて頂いた時に色々やりたいと計画したんですが、計画倒れで思う事が出来なかった。それが非常にショックでした。本業もロータリーも共倒れになっちゃうんじゃないか、どっちかというところロータリーが疎かになってしまいました。自分でも忸怩たる思いを残しながら幹事を終わってしまったという感じでした。これで入会8年になりますがそういう事がだんだん分かって参りまして、此処で思い切って仕切り直しを

した方が良いのではないかと考えるようになりました。

入会の時片野さん、河本さん、杉山さんがお出で頂きお話を聞きましてお誘い頂き以来8年間おらせて頂きました。この間に世の中は非常に大きく変わりました。変化のスピードは一段と速くなってきています。クライアントに対する助言、指導についてお客様の必要な時、必要な場所にきちん居りたいと言う思いが非常に強くなりました、これから消費税や相続税が上がり皆様の生活も変わってくると思いますし、私達のビジネスも変わって参ります。大変デリケートでリスクな事で、スタッフ任せには出来ない事もあり、スタッフからも早く戻ってきて欲しいと言う要望もありますし・・・。

ロータリーの基本である職業奉仕の精神を本業に生かして精進して行きたいと思えます。又ボランティア活動も自分の等身大でやって行きたいと思っております。

齋藤ドクターをはじめ多くの方の卓話は大変興味深く、多くのことを学ばせて頂きました。有り難うございました。

会員を辞めたら縁の切れ目と言うことにならないで「何処で会っても やあとと言おうよ・・・」の歌のようにこれからも声を掛けて頂くようお願いいたします。

8年間家族ぐるみで色々お世話になり有り難うございました。

今後の大磯ロータリークラブの益々のご発展と、会員皆様とご家族のご健勝を心から祈念申し上げます。有り難うございました。

◇新宅文雄 IM実行委員長

IM実行委員会より：IMの実行計画と予算額とがかけ離れていたもので、プリンスホテルの原さんと相談の結果大幅な価格引き下げを決断頂き会費7千円を引き上げずにすみしました。(原さんに感謝の拍手)

◇河本親秀さん

本年7月4日から11月14日までの会報17号分が1週間前から大磯クラブのホームページに掲載されています。又今日の例会から音声も聞けるようにする予定です。卓話音声だけにするか、全部にするか検討します。また音声を掲載して問題の有る内容かどうかの判断は編集者に御一任お願いします。

今さっき大堀先生から、「先日弁護士会の集まりの時に、お隣に座られた茅ヶ崎RCの程島先生から大磯の会報はなかなか充実している」というお褒めの言葉があったそうです。

会報は私のテープ起こしの文章と写真を手塚さん

に送り、手塚さんが編集ソフトを使って会報に創り上げる共同作業で出来ていますので、手塚さんにも聞いて貰いたくて報告しました

◇委員会報告

☆スマイルボックス 井上 浩吉さん

・百瀬 恵美子さん：今日は、大堀さんお久しぶりです。御誕生日、御結婚記念日Wでおめでとうございます。卓話たのしみです。

・守屋 紀忠さん：大堀さん卓話よろしくお祝い致します。結婚祝い大堀さん、井上さん誕生日祝い合わせておめでとうございます。

・河本 親秀さん：大堀さん誕生日、結婚記念日おめでとうございます。卓話楽しみにしています。井上さん結婚記念日おめでとうございます。

・笹尾 政儀さん：井上さん、大堀さんお二方の結婚祝いを祝福します。大堀さんの卓話楽しみです。

・大堀 昭二さん：お久しぶりです。井上さん御結婚記念日おめでとうございます。

・新宅 文雄さん：①大堀先生誕生日祝、結婚記念日祝おめでとうございます。②井上さん結婚記念日祝おめでとうございます。

・井上 浩吉さん：大堀さん誕生日と結婚記念日おめでとうございます。卓話よろしく。結婚記念日のお花ありがとうございます。

◇卓話

◆◆◆或る大学名誉教授の

インテリジェンス研究のこと◆◆◆

大堀 昭二さん



資料配布：山本武利著「GHQの検閲・諜報・宣伝工作」の表紙

皆様もご記憶に新しいと思いますが、今年6月、スノーデン事件というのがありました。アメリカ政府が、グーグルやフ

フェイスブックなどのIT企業を通じて世界中のデータを把握していることを、元アメリカ中央情報局（CIA）職員のスノーデンが暴露したわけです。内部告発です。彼によると、CIAにはネット上のメールを収集する極秘プログラムがあって、1日数百万件の世界中の通話記録の傍受をしていたというのですから、凄まじい話です。その通信傍受の対象にはもちろん日本の政府機関も含まれているわけです。このスノーデン事件につづいて、大騒ぎになったのがドイツのメルケル首相に対する携帯電話盗聴事件です。これはつい10月のことです。この2つの事件とも、インテリジェンスの問題です。「インテリジェンス」というのは、「諜報・情報」つまりは、国家機関によるスパイ活動、それによる情報入手の問題です。この事件がきっかけでしょうか、最近の新聞やテレビでもインテリジェンス問題がかなり報道されるようになってきました。

実は、日本のインテリジェンス研究の第一人者になっている大学の後輩がいます。山本武利君といいます。現在、早稲田大学と一橋大学の名誉教授をしています。その彼が、今年の初めにNPO法人インテリジェンス研究所を立ち上げ理事長になりました。その山本君が、6月に岩波書店から「GHQの検閲・諜報・宣伝工作」という本をだして、私にも贈呈してくれました。贈呈文には「自分のライフワーク」ともありました。私が贈呈された経緯は後ほど申し上げます。

この本の帯をみると「占領下、GHQによる検閲のメカニズムを解き明かす マッカーサーによって配給された日本人の言論空間とは」とあります。この本によると、アメリカは、すでにGHQとして日本を占領していたときから、日本列島の津々浦々に傍受システムを張りめぐらし、通信はもちろんのこと、言論・出版・郵便の検閲をしていたというのです。

少し具体的に内容みますと、その時期は、昭和20年11月から24年3月にかけてのことで、そのピークは昭和22年1月頃です。その頃の世相はというと、昭和21年をみると浮浪児4000人、夜の女1万8000人、東京の闇市6万店とあり、昭和22年をみると、笠置シズ子の「東京ブギブギ」、石坂洋次郎の「青い山脈」連載開始、「鐘の鳴る丘」ラジオ放送開始という時代のことになります。戦争が終わり少しずつ明るい光が、というこの時代、その裏側で起こっていたことです。検閲の対象物は、①本・雑誌はもちろんのこと業界紙・PTAの会報

・紙芝居に至るまでの出版物、②電話の傍受、③郵便検閲までしていたというのです。その実行部隊は、CCD（民間検閲局）で、そこに働く日本人は8000人余りもいたというのです。このCCDによる「郵便検閲」のところが、11月5日（火）午後7時30分、NHKテレビの「クローズアップ現代」で紹介されました。もちろん、山本君も登場していました。出版物の検閲は織り込みずみとしても、通信傍受や郵便検閲までされていたこと、そこでの情報が盗聴され利用されていたことを知っている日本人は、その分野のプロの間でも極々少数であったそうです。

GHQのその目的はというと、軍国主義復活の阻止、共産主義の国内への浸透防止、そして占領の実を挙げることです。山本君の言葉を借りれば「CCDの検閲工作とCIEの宣伝活動を通して分かることはアメリカの日本に対する実質支配を完全に不可視化して（目に見えないものにし）、啓蒙・指導の様相を可視化することで、日本人の改造工作をしていた実態である。日本のメディアはブラック化装置で縛られ、日本人はアメリカのブラック・プロパガンダに操られていたのではなかったか」ということです。要するに、実質支配の姿は見えないようにして、「啓蒙・指導」（民主主義・自由主義・平和主義思想）の姿はよく見えるように、という、「これが、検閲のメカニズム」です。ですから、そのやり方は巧妙で、検閲をした痕跡を残すことや検閲官の指示により手を入れることが分かるような修正は一切許さなかったのです。戦時中の日本における伏字だらけの出版物の検閲とは段違いの徹底さということになります。

情けないことですが、不勉強で、7月に彼からこの本を贈呈してもらった頃、私にはこの本の値打ち、凄さについては実はよく分かりませんでした。価格は2300円と少々高いです。岩波書店の「岩波現代全書」の第1陣での出版です。岩波は今年創業百年で、その「発刊に際して」として「現代の諸問題を受け止め、全分野の最新最良の成果を、好学の読書子に送り続けたい。その願いを込めて、創業百年の今年、ここの『岩波現代全書』を創刊する」とあります。ですから、私も、この本については、学術書としてもそれなりのものであろう、という程度の漠然とした評価はしていました。しかし、だんだんこの本の凄さが分かってきました。メディアが取り上げだしたのです。例えば、9月6日の朝日夕刊一面に連載「筆禍をたどって（9）」に記載され、9月15日の朝日朝刊の書評欄にノンフィクション作

家の保阪正康氏が「日本占領期にGHQの言論弾圧はいかに巧みに行なわれたか、その巧みさをアメリカのさまざまな機関から収集した記録文書で白日のもとにさらす。著者はその研究では第一人者であり、実際にその現実を解き明かされると大日本帝国型の言論弾圧とは異なる総合的なシステムが用いられていることがわかる」と、高く評価をしています。そして、今申上げた11月5日のNHK「クローズアップ現代」での紹介です。

50年後に情報公開されたアメリカの国家・外交機密文書に切り込んで、「プランゲ文庫」などなどの中から様々な資料を発見し、実証的に検証しその実態をえぐり出したところが彼の凄いところです。予断になりますが、朝日についてです。4年前になります。山本君には「朝日新聞の中国侵略」と題する朝日批判の著作もあります。朝日はそういう山本君について正しく評価する論評もきちんと掲載する姿勢を持っています。まだまだ捨てたものではないとも思います。門外漢の私にも、今や、この本が一級品であることがわかってきました。しかし、読みにくいし、難しい。寝ながら読むことは無理です。引用・参考文献がたっぷりあって読みごたえがあります。

私が彼からこの本を贈呈された経緯についてです。

山本君とのそもそもの出会いは50年以上も前の学生時代のことです。私は大学構内にある坐禅道場の住人になっていました。ある日、一人の新入生が道場にやってきました。それが彼との最初の出会いでした。そのときのことを、私はよく覚えていないのですが、彼は「親切に対応してくれた先輩がいた。それが今弁護士をしている大堀先輩だったことをはっきり記憶している」みたいなことをどっかで書いていました。これは、もう20年くらい前のことです。彼は、南博という心理学の先生のゼミでマスコミ論などをやっていました。この南先生は、当時、新劇女優東恵美子とのいわゆる自由結婚、つまりは、夫婦別姓婚・別居婚で、当時「日本のサルトルとボーボワール」などともいわれ、かなり有名な学者でした。ついでに、この南ゼミからは、変わり者が出ています。石原慎太郎さんとかヒットソング「走れコウタロウ」の山本コウタロー君もそうです。こちらの山本武利君は真っ当な部類になるのでしょうか。彼は、その後、研究者の途へ、そして、私が弁護士になった頃（27年前です）は、母校一橋の教授になっていました。そして、私の法律事務所の開所パーティーにもきてくれて、丁度、その頃彼が出版した「公害報道の原点・田中正造と世論形成」を贈

呈してくれました。その後、アメリカに研究留学もしたようでした。私が文春新書の本をだしたと同じ頃に、彼も文春新書「日本人捕虜は何をしゃべったか」を出していました。日本のインテリジェンス研究の草分け、開拓をし、そして、いつのまにか、その分野の第一人者となったわけです。

昨年のこと、東京神田で、ごく内輪の（それでも100名くらい集まってきました）彼の講演会があり、私も出席しました。演題は「インテリジェンス」でした。不勉強ゆえに、私には話の内容についていけないところもありました。彼は能弁タイプではなくぼそぼそという感じですから、なおのこと分かりにくいのです。その講演も終わり近くになって、彼が「体力が衰えてきて、研究は大変です」というような弱気なことを口にしたのです。内輪の気安さからでしょうつい本音を漏らしたのでしょう。講演が終わり、質問の時間があり、何人かの質問者がありみな専門的な質問でしたが、私も立ち上がって少し場違いの質問をしました。今述べました25年前の本のこと、現在のインテリジェンス研究のこと、この間の彼の研究の進化を褒めながら、私の持論の「70、80は働き盛りです」と、それに加えて、ロータリーで学んだ「世のため人のためにますます頑張ってください」と申上げたのです。こういう経過があったからでしょう、今年の彼からの年賀状には「昨年にご激励いただきありがたく存じます」とあり、近々本を出すことも書いてありました。そして、7月にこの「GHQの検閲・諜報・宣伝工作」を贈ってくれたわけです。私は、彼がそんな凄い研究をしているとも思わず、先輩面をして激励の弁を述べてしまったわけですが、彼がこの27年間でインテリジェンス分野の研究を広く、深く、大きく進化させてきたことを目の当りにして、感慨深いものがあります。微力ですが陰ながら応援もしようと思っていますし、何よりも、私もこの本から、そして、彼の仕事に取り組む姿勢に大変勇気をもらったわけです。私も老体に鞭打ってということでもありませんが、彼を鏡にして頑張りたいと思います。最後になりますが、興味のある方はこの本も是非ご購入いただきお読みいただければ幸いです。以上